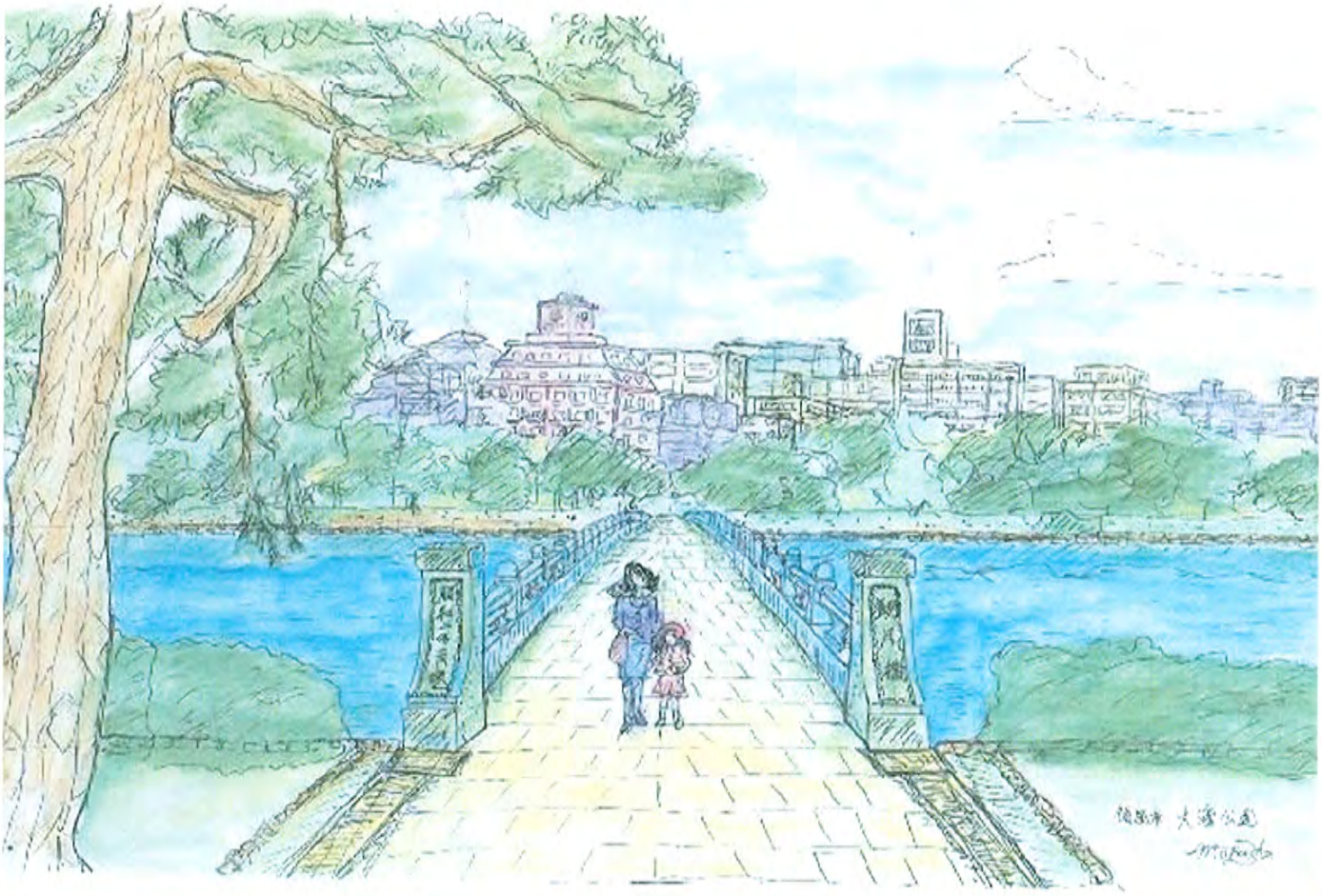


和のランドスケープ・プランニング

― 日本の美しい街なみ創造 ―

増田 元邦　著

一般財団法人
日本緑化センター

ランドスケープとは何か？　　何故、都市計画・街づくりにランドスケープが必要か？

→　文明進歩の各種の要求に対して、最も便利に、最も経済的に、そして最も美しくなるように土地を編成する技術

→　そうして創られた美しい空間こそが、人々が豊かに生活を営め、そこに住みたい、訪れたいと思人々が多くなる結果、その土地の資産的価値を高める。

5. 都市整備における地域自然との融合

日本の都市の市街地形成は、近世における城下町整備に端を発する都市が多い。こうした城下町は、その多くが1600年代前後の秀吉・家康の時代に都市整備されている。領地を拝領した戦国大名は、城下町を都市防衛や都市の商業・工業の振興のための都市機能だけではなく、ランドスケープの視点からの都市美を考慮した都市建設を行った。ヨーロッパの都市のように、自然と対峙し、自然と分断した空間を創り上げるという都市形態と異なり、日本の城下町は、周辺の山や海・河川の自然地形を巧みに取り入れ、自然と融合した都市を創り上げてきた。

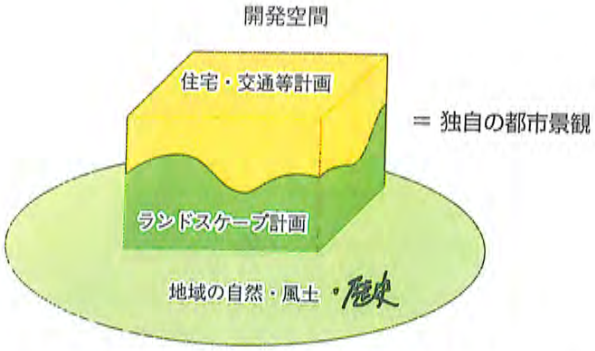


図-9　都市整備における地域自然との融合概念図

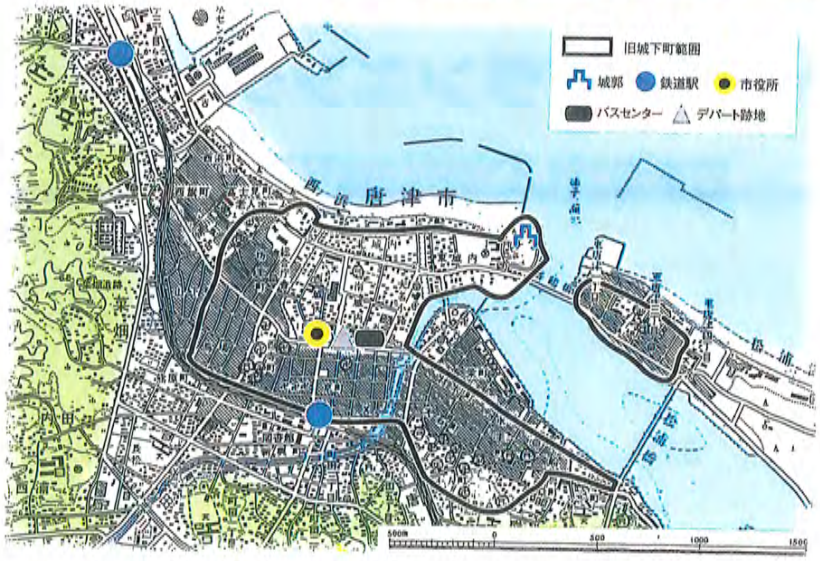


図-10　城下町・唐津市の変遷

上：近世図（城下町絵図）肥前国唐津城廻絵図（太陽コレクション　熊本・九州の城下町　別冊太陽より引用）

下：現代図　1:25,000（唐津・国土地理院，平成14年12月1日発行を使用して作成）

宮城県女川町：女川サプリメント

宮城県女川町：高台の新施設

8. 環境土工

環境土工

開発行為において、自然環境の保全・復元計画に策定された項目については、切土・盛土工事の中にこれらの工種を盛り込み実施する。「大木・貴重木の移植」「表土の保全」「水環境の保全」が主要な項目である。なお、「水環境の保全」項目については、湧水保全、造成による保水層分断への処置、盛土工事の圧密促進のためのドレーン管設置を新たな地下水脈としての利用検討等が挙げられる。

自然環境の保全復元計画

開発行為で地形改変する中で、「保全される自然空間」、「復元される自然空間」、「都市的な半自然空間（河川・公園・緑地や道路の街路樹空間等）」を土地利用計画と連動した空間として捉え、こうした空間を連続的に繋げるような「自然環境の保全復元計画」を策定する。

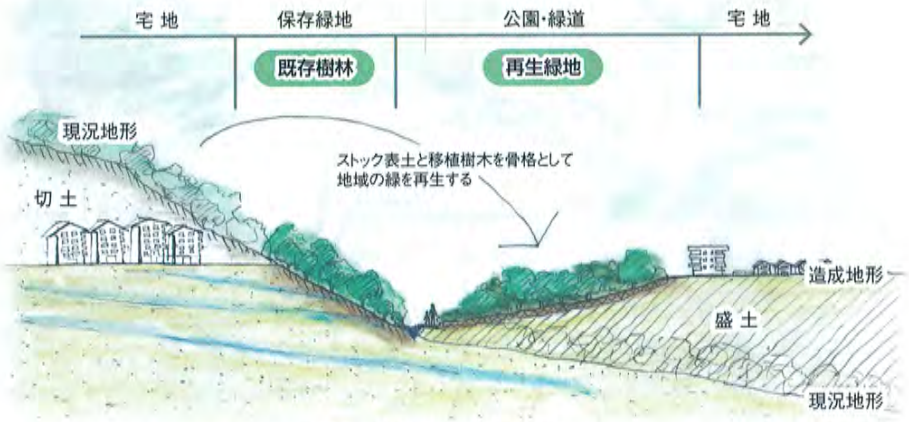


図-14　環境土工の概念図

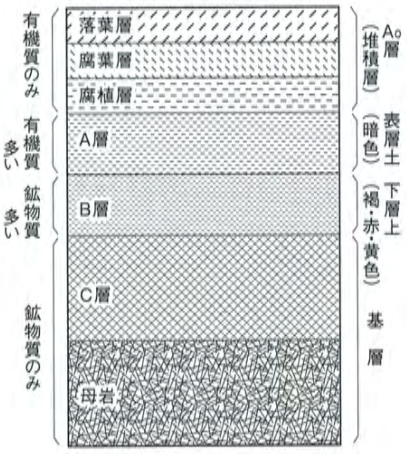


図-15　土壌の断面

写真-7　重機移植工法

写真-8　根株移植工法
移植１年後に旺盛に萌芽したエゴノキ。

1. 和のランドスケープ・プランニングの背景

わが国の気候・地形は、世界の主要先進国に比して大きな特徴を持っている。ランドスケープの計画立案の観点からとらえる気候・地形の特色には、①国土が温帯モンスーン地帯に属している、②年間の降雨量が多い、③国土の約７割が森林である、という特徴が挙げられる。

この温暖な気候で年間降雨量の多いことが、私達の国土に豊かな植物相を生み出し、豊かな水系を創り出している。しかし、国土がほとんど森林で覆われている山岳地形であるため、水系は豊富であるが、急峻な河川形態となっている。この「温暖で、雨が多い山の国」であることが、豊かな水と濃い緑、さらに多様な自然の風土を生みだしている。

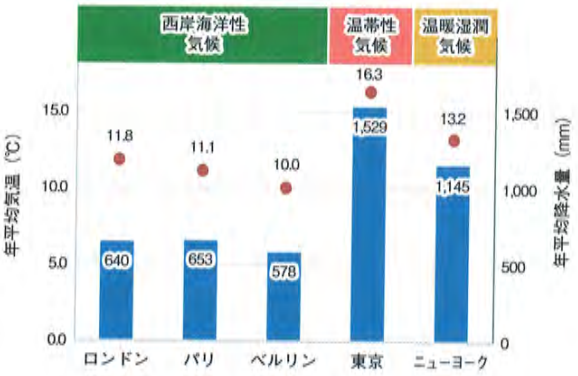


図-1　世界主要先進国の年間平均気温と平均降水量
1981年から2010年までの平均値（平成25年理科年表）

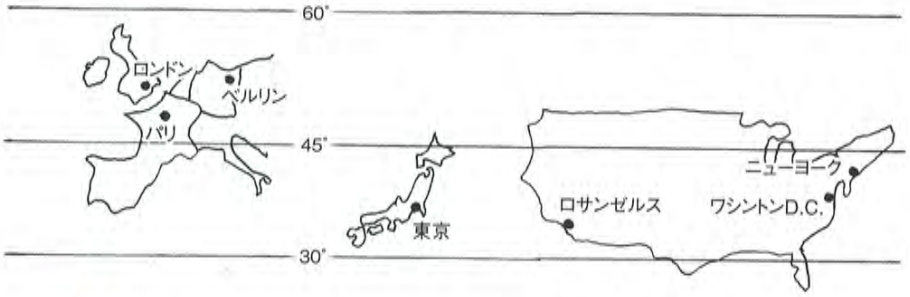


図-2　世界主要都市の緯度

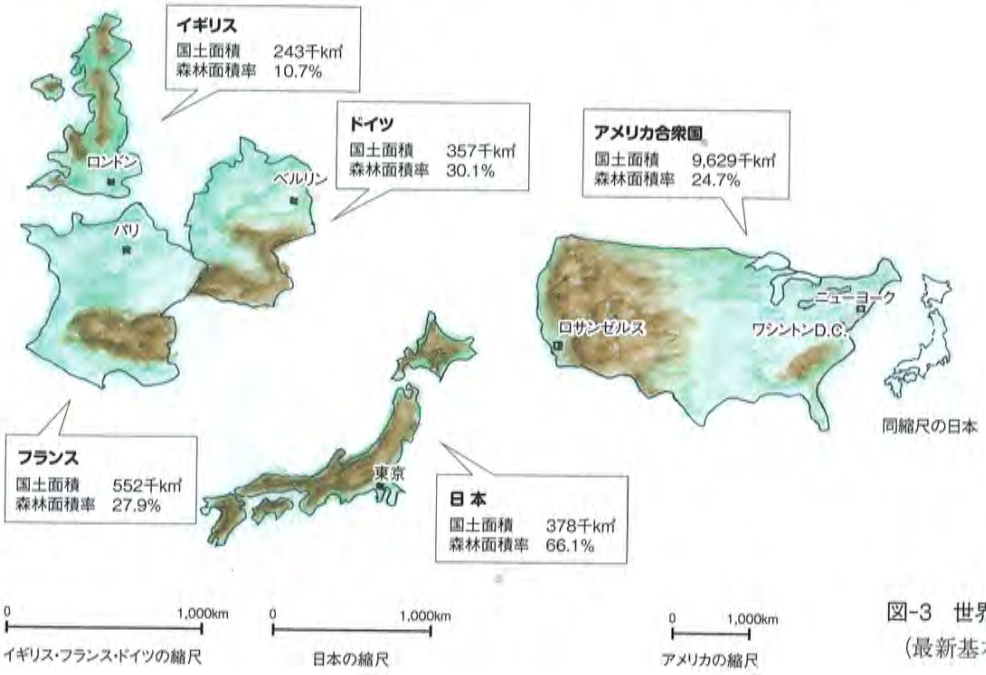


図-3　世界主要先進国の森林面積
（最新基本地図 2007, 帝国書院）

2. 山と都市の景観関係

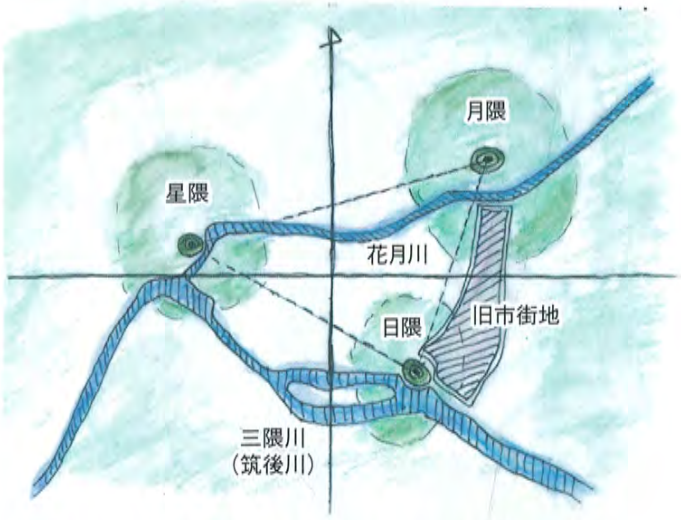


図-5　都市に内包されている山（日田の三隈（みくま）と三隈川）

大分県日田盆地には、日・月・星の隈（丘陵）がある。日田の「三隈と三隈川伝承」については、豊後（ぶんご）風土記に記述がある。各隈名が各地区の公共施設名にもなっている。

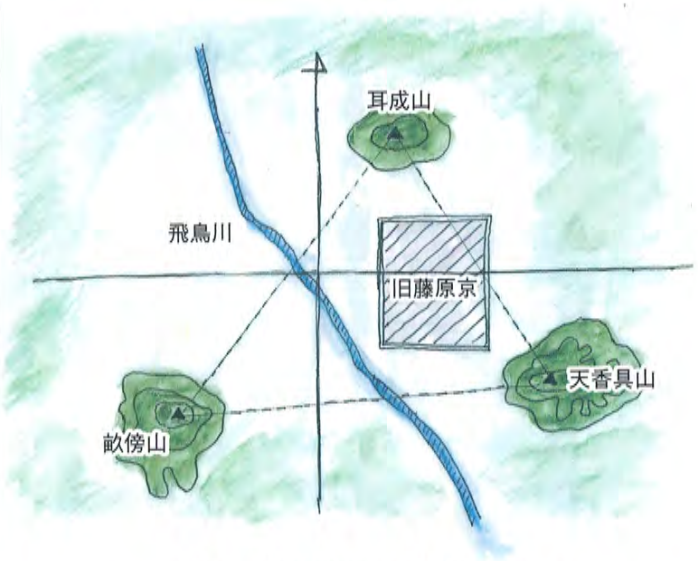


図-4　都市を囲む山（大和三山）

旧藤原京は、大和三山である畝傍山（うねびやま）・耳成山（みみなしやま）・天香具山（あまのかぐやま）の三山鎮むる位置に整備された。

3. 歩行者空間の景観特性

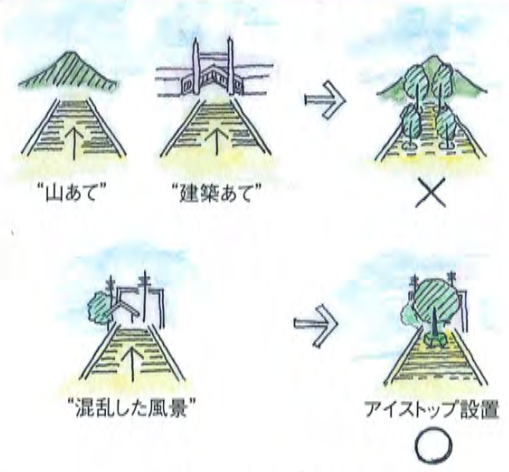


図-16　道路前方の景観

写真-38　"タワーあて"の歩行者専用道路

歩行者専用道路の軸線をタワーに当てて、都市的な景観を創り出している。

写真-37　"山あて"の歩行者専用道路

歩行者専用道路内に樹木等を植栽せず、全面の山を見せることで、安らかな道路空間を生み出している。

写真-39　"建物あて"の道路

ロンドンのリーゼント通りでは、優れた建築物をビスタとしている。

1. 道の和の景観

道の和の景観構造

日本の道路景観を考えるに当たっては、「和の景観構造」を認識しておく必要がある。近世に整備された日本の城下町では、武家屋敷や町屋の街並みにおいては、道路には街路樹はなく、武家屋敷や町屋の敷地から道路にはみだした緑が道路における緑空間を形成していた。近代都市の高層ビルが立ち並ぶ都心部においては、道路に街路樹を設置することが都市景観として不可欠である。しかし、伝統的建築物が並ぶ城下町等の現代の道路拡幅においても、道路工事で街路樹が整備されている。このことにより、低層建築の街並みにおいて、道路沿道の建築を阻み、道路前方の景観の見通しも悪くしているという、近代道路整備と和の景観のミスマッチの事例が全国各地で発生している。

図-12　和の道の景観構造

写真-33　角館（秋田県）の武家屋敷

武家屋敷の敷地から、ケヤキやサクラの大木が板塀越しに道路にはみ出し、独特の城下町情感を演出している。

写真-34　杵築（大分県）の武家屋敷

武家屋敷の塀は土壁で、緑はクスノキであり、敷地から顔を出すバショウが南国らしい城下町景観となっている。

写真-35　近江八幡（滋賀県）の武家屋敷

武家屋敷の敷地から板塀越し道路に出ているマツは、いわゆる“見越しの松”である。

写真-36　日田・豆田町（大分県）の町屋

町屋では、塀はなくなり、建物の表情や敷地内の緑が道路にはみ出す。

1. 水空間の景観構造

日本の水系空間

水は生命の源であり、物質循環の基軸である。日本は、世界の先進国の中でも稀な多雨国であるために、日本の風土・文化は降雨とその結果生じる水系の情景を抜きには語れない。また、日本には、季節の変わり目には必ず雨期が存在し、こうした自然・気候条件が、日本人のデリケートな四季の感覚や晴雨の感覚を育ててきた。

“雨の国”である日本は、雨も水も私達の貴重な景観資源として捉え、文字どおりの「うるおいのある街づくり」を進めるべきである。

写真-14　水辺の演出

街中の水路も、水辺に植物等を配置することで、より水辺景観が演出される。

写真-13　下水道施設と化した河川

ただの治水目的だけで整備された河川は、人々の目から見離されてしまう。

写真-19　水空間と緑空間の組み合わせ

いわゆるカミソリ護岸の河川でも、緑が配置されることで景観に変化を与え、樹木に鳥や昆虫が飛来し、緑と水の生態的なサイクルが始まる。

写真-16　情感豊かな都市の水系景観

河川に橋や樹木、建物物が組み合わされることで、その都市独自の情感豊かな水系景観が演出される。

2. 河川の修景・親水計画

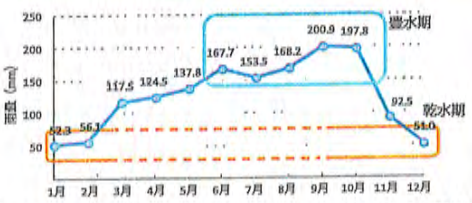


図-7　東京の月間降水量の変化 1981～2010年の平均値
（理科年表 平成 25 年版）

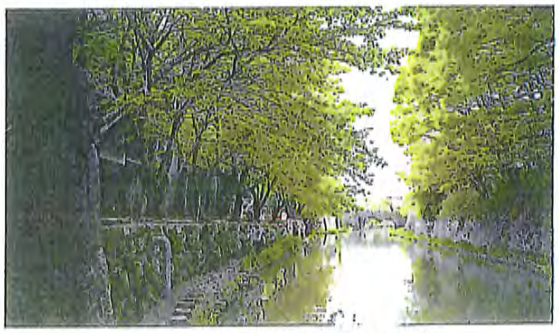


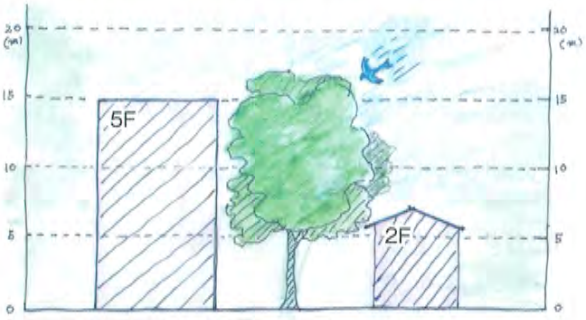
写真-24　河床のプロムナード事例1

3. 緑の成長限界・大きさ

樹木と建築のボリュームバランス

写真-6　建物と樹木のスケール関係

関東では大木として成長するケヤキも、単木では5階建ての建築ボリュームに対応するのが限界である。



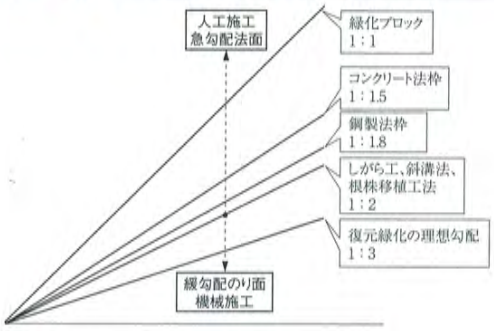


図-4　法面安定工法の施工限界勾配

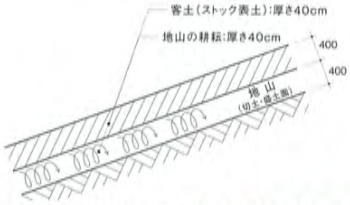


図-5　3割勾配法面の植栽基盤工事の設計例

4. 緑の成長限界・法面勾配

造成法面の復元緑化計画

写真-9　早期の復元緑化が望まれる造成法面

丘陵地の造成工事で発生した長大法面には、早期の復元緑化が望まれる。

写真-11　急勾配法面の緑化工法事例（斜構法）

斜構法が採用された2割勾配法面。URにより、多摩ニュータウンの現場で考案された。

写真-10　緑で復元された造成法面

造成法面に、保全されていた表土をオーバーレイして、造成工事時に移植樹木と購入樹木とで、植生復元された3割勾配法面。

写真-12　急勾配法面の緑化工法事例（鋼製法枠工法）

急勾配の造成法面では、客土そのものが滑落してしまうため、鋼製法枠等で安定処理をした上で、客土や植栽工事を行うことが必要となる。

5. 都市の街路樹計画のシナリオ

道路の街路樹計画

街路は都市の骨格であり、その街路景観を特色づける重要要素としての街路樹の存在は大きい。少しずつ、時代とともに拡大してきた都市では、都市全体の街路樹計画のシナリオを持つことは困難である。

これに対して、ニュータウン等の計画的な新市街地では、当初から都市全体の街路樹計画のシナリオを持って街路整備を行ってきた。UR 施行のニュータウン整備の街路樹整備を事例として解説する。

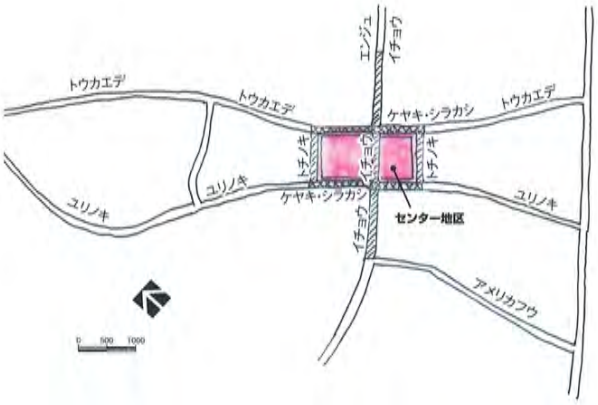


図-18　筑波学園都市の街路樹計画：
郷土種を核とした田園風景との調和

地域の屋敷林を構成している樹林のケヤキ・シラカシの郷土種を街路樹として採用し、センター地区には、都市性を表現するために、大木となるケヤキ・トチノキを選定している。

図-20　千葉ニュータウン（センター地区）の街路樹計画：
常緑樹を核とした紅葉樹計画

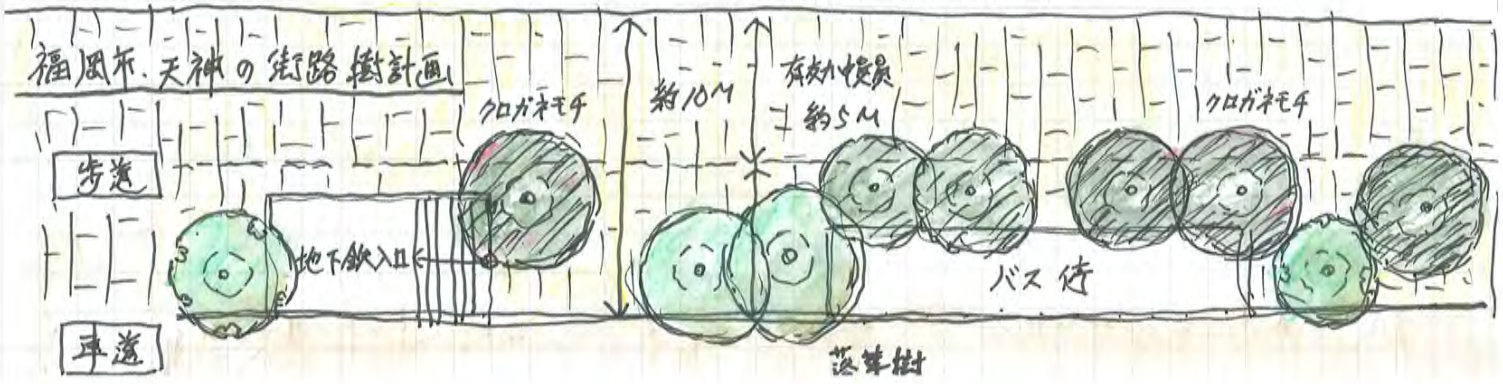
センター地区は大木となるクスノキで構成し、ニュータウン軸の鉄道沿いの幹線道路には、同じ常緑樹であるシラカシを採用し、周辺街路は季節感を演出する紅葉樹としている。

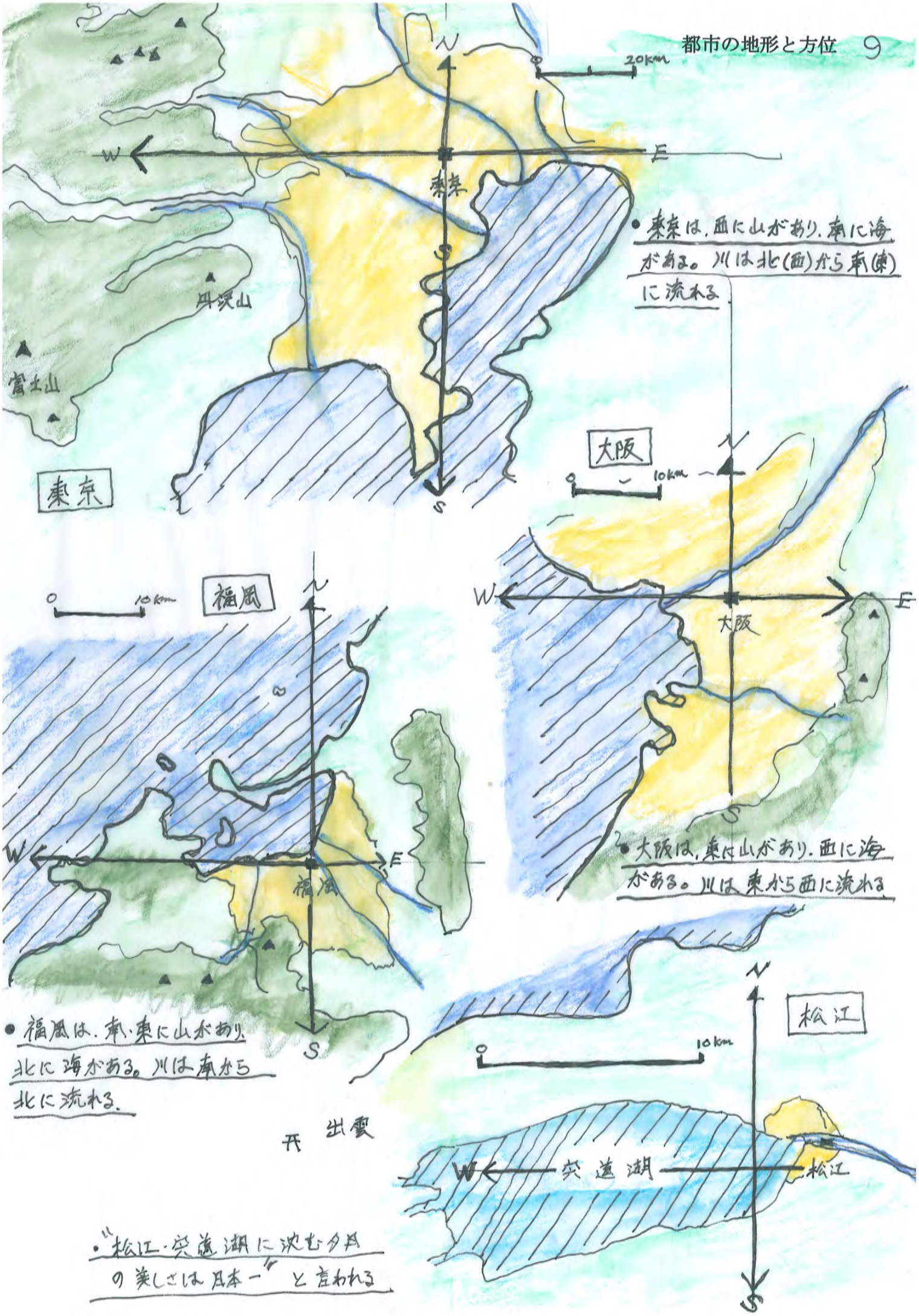
図-19　横浜・港北ニュータウンの街路樹計画：
東西軸・南北軸の明確化

ニュータウンの均一な街路風景を補うために、東西軸に常緑樹、南北軸を落葉樹とし、ニュータウンの東西と南北方向を明確にしている。

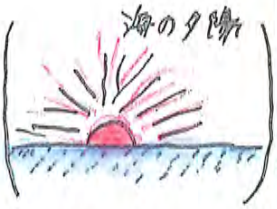
図-21　多摩ニュータウン（八王子市域）の街路樹計画：
ヤマザクラを基軸とした紅葉樹計画

地区を中央を貫く幹線道路をヤマザクラとし、地区内ループ道路をメタセコイア・モミジバフウ・ユリノキの混植とし、周辺街路は紅葉樹を基本としている。

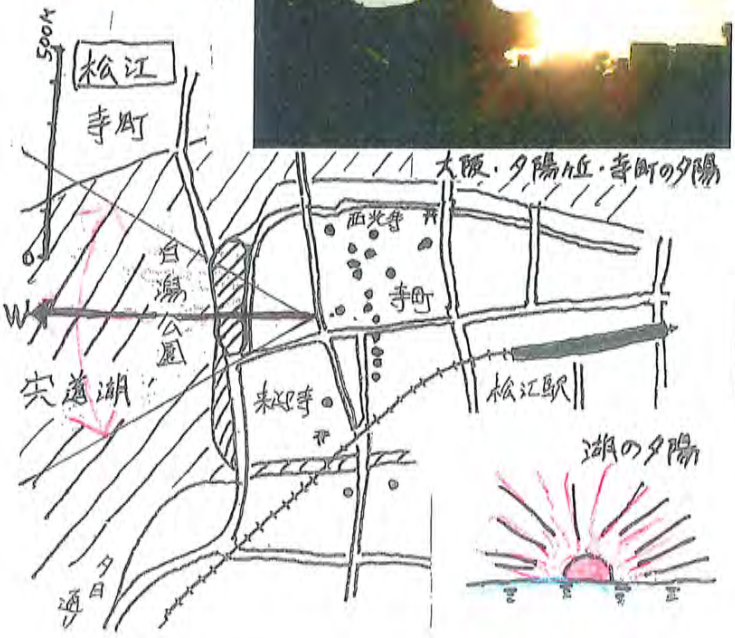


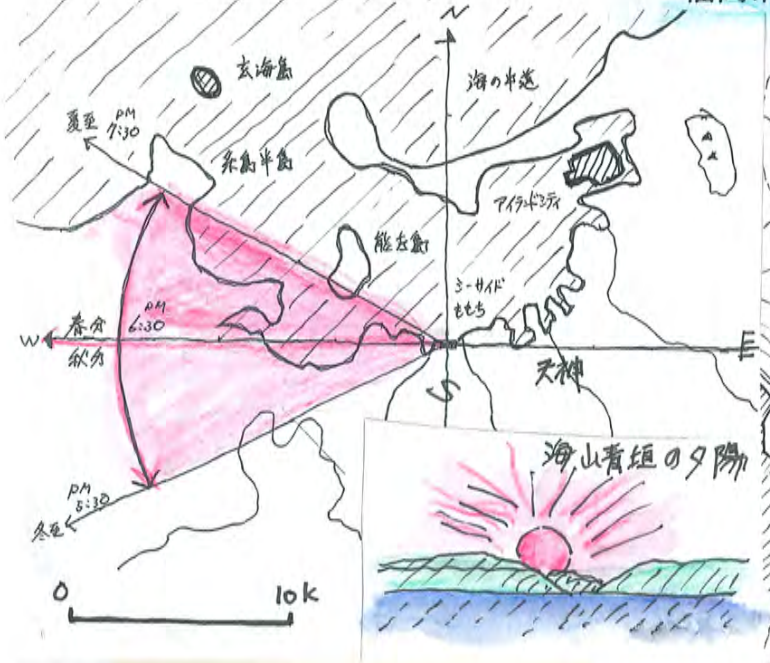

N
W
E
S
0
20km
東京
丹沢山
富士山
東京
• 東京は、西に山があり、南に海がある。川は北(西)から南(東)に流れる
大阪
0
10km
N
W
E
S
大阪
• 大阪は、東は山があり、西に海がある。川は東から西に流れる
福岡
0
10km
N
W
E
S
福岡
• 福岡は、南・東に山があり、北に海がある。川は南から北に流れる。
松江
0
10km
N
W
S
宍道湖
松江
出雲
• "松江・宍道湖に沈む夕日の美しさは日本一"と言われる

東京・谷中・ゆうやけだんだん

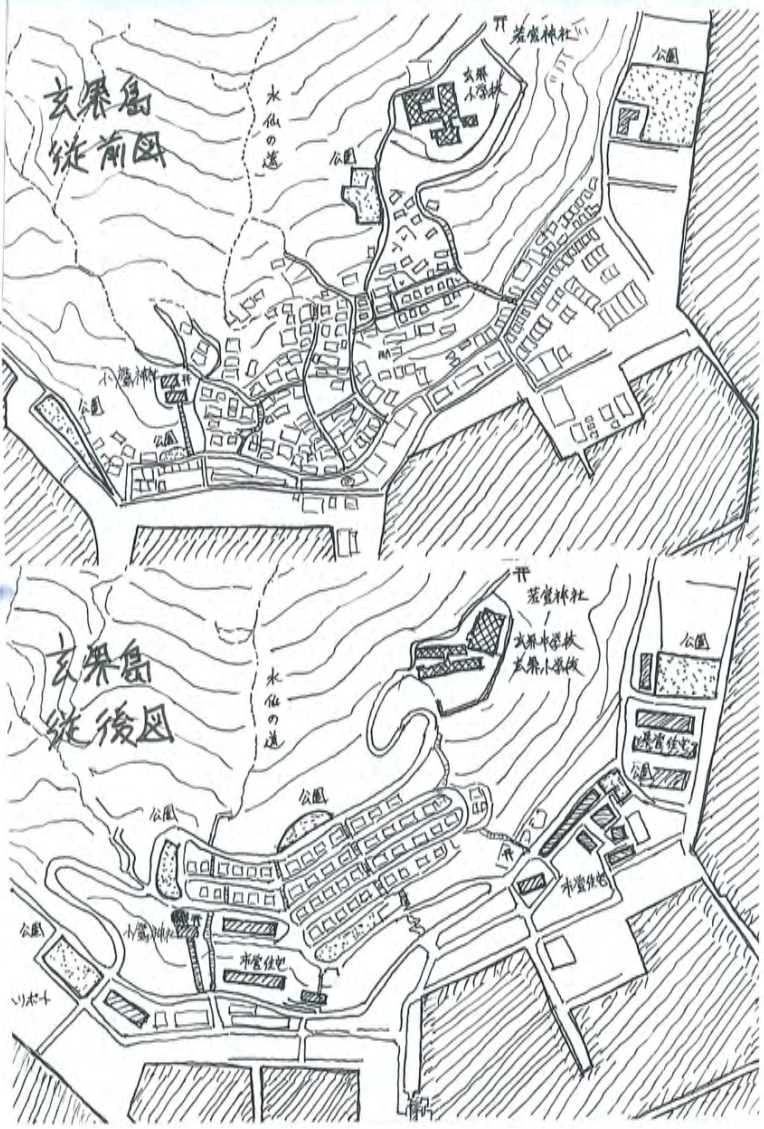


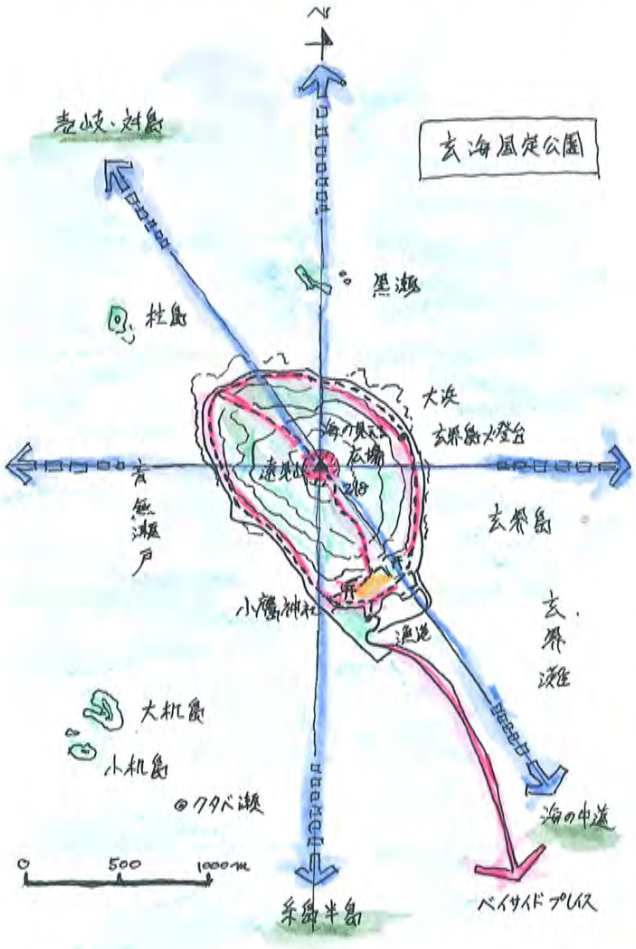
大阪・夕陽丘・寺町の夕陽



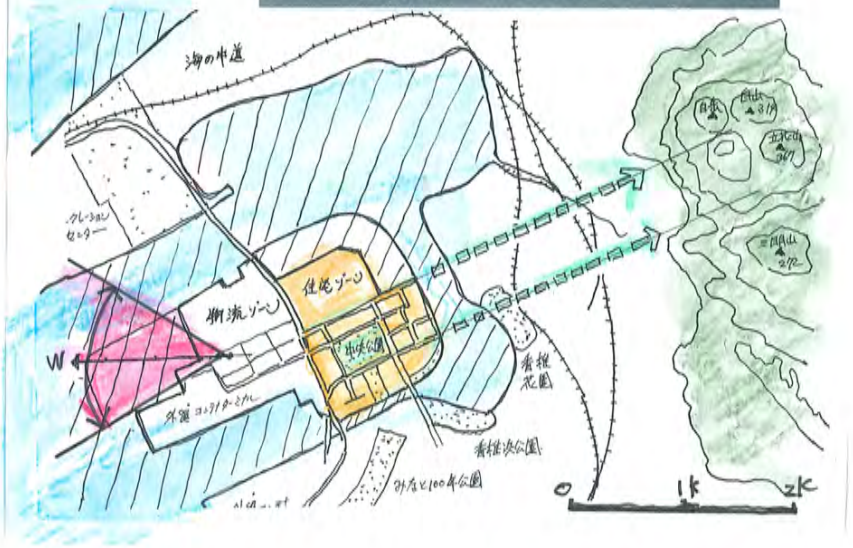


能古島に沿う夕日





博多湾の山青垣



地形の段差処理

←階段の処理

海岸通り

小鷹神社と遠見山頂上からの海景観

枯れた街路樹

白山と立花山のビスタ

公園と道空間の取り合い

浜の町公園と那の津通り

歩道と自転車道との分断

明治通り（舞鶴公園前）の道空間

アイランドタワーと子供病院の色彩

シーサイドももちのカラーコントロール